

平成23年度 湖北農業農村振興事務所 組織目標

様式2

目標	目標設定の理由	平成23年度の目標値	到達すべき目標値	平成23年度の目標達成に向けての手段・方策	
水田野菜を中心とした園芸品目の生産拡大	<ul style="list-style-type: none"> 湖北地域は水稻中心の経営が多いが、米価等の下落の影響もあり、集落営農、定年帰農者、青年農業者など多様な農業担い手が園芸を取り入れた経営複合化により所得向上をはかる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 水田野菜の栽培面積拡大 23年度水田野菜事業作付け面積 37ha (うち新規拡大面積 10ha) (22年度水田野菜事業作付け面積 27ha) (うち新規拡大面積 11ha) 	<ul style="list-style-type: none"> 水田野菜の面積拡大 (目標年度) H28 50ha 	<ul style="list-style-type: none"> 所得向上のため土地利用型作物だけでなく経営の複合化として水田野菜の推進をはかる。 	
環境こだわり農業のさらなる普及拡大	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な農産物に対する消費者ニーズの一層の高まりとともに、琵琶湖や周辺環境への負荷削減、温暖化対策、生物多様性保全に効果の高い環境こだわり農業のスタンダード化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境こだわり農産物の栽培面積拡大 23年度 2,900ha (うち環境保全型農業 30ha) (うち水稻栽培 2,700ha) (22年度) 2,778ha (うち水稻栽培 2,618ha) 	<ul style="list-style-type: none"> 環境こだわり農産物の栽培面積 (前年対比4%増) 	<ul style="list-style-type: none"> 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策により、地域でのまとまった取組が拡大されるよう市と連携して推進する。 	
農業水利施設のアセットマネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 湖北管内の農村地域には2400kmにおよぶ農業用水利施設が張りめぐらされているが整備後30年が経過し、年々老朽化が進行しており、その維持保全を計画的、総合的に行う。 基幹施設の現状を把握し、今後の保全計画を策定。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地改良区や市と情報共有しながら取り組むため6月の「アセマネ推進協議会」の設立を推進。 23年度 残り14施設の機能診断、保全計画策定。 	<ul style="list-style-type: none"> 機能診断、保全計画策定数 湖北管内 57施設 	<ul style="list-style-type: none"> 「湖北地域アセットマネジメント検討会」により情報の共有を図りながら推進する。 土地改良区、市と連携して合同診断を実施する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ハード整備による取り組み 経営体育成基盤整備事業による用排水路の更新。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事の執行は、早期発注を徹底し、上半期発注率80%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営体育成基盤整備事業による施設更新済み整備面積 2,520ha(H22まで採択地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 適時、適正な工事の執行により、効率的な整備を推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> 「まるごと保全」による、末端施設の長寿命化のための補修、更新を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 末端施設の長寿命化に向けた活動組織の体制整備を、25組織で推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域主体で取り組む向上活動により、末端施設の整備を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 市と連携しながら、活動組織に対し向上活動への積極的な支援を行うと共に、継続が予想される共同活動については、拡大に向け地元への普及を推進する。